

アンコール遺跡群 タニ窯跡群の保存整備計画

経 緯 奈文研では1993年度からアンコール文化遺産保護に関する研究協力事業を行ってきた。1999年度からは第3フェイズとして、1995年に発見されたタニ窯跡群に調査対象を定め、これまでに1999年8月および2000年2月と8月の計3回、発掘調査を行ってきた。昨年度までに窯体の発掘調査はほぼ終了し、今年度は発掘で明らかになった遺構の保存整備計画の策定と施工準備を行った。以下に保存整備計画の概要を記す。

なお奈文研で行った発掘調査はA6号窯に対してであるが、同時に共同研究調査として上智大学アンコール遺跡国際調査団がB1・B4号窯の発掘調査を行っている。以下に紹介する保存整備計画は、タニ窯跡群の整備計画という位置付けから、B群の諸窯をも含めた計画となっている(図26)。

全体計画 タニ窯跡群では南北に延びる低丘陵上に窯跡が点在し、南側のA窯跡群で6基、北側のB窯跡群で9基の窯跡が発見された。まずこの丘陵全体を窯跡歴史公園として整備する全体計画を策定した。全体計画では、整備対象区域を4地区に区分し、各地区ごとに個別の機能を付与するゾーニングの手法を採用することとした。

遺跡群の南端は便益施設地区とし、駐車場や便所など来訪者の便益をはかる施設を整備する。その北のA・B両窯跡群が遺跡整備の中心的な地区となるが、それぞれに検出された窯跡の構造には大きな違いがないことから、後述するように、異なった遺構展示手法を用いて単調にならない整備を目指した。北端は体験学習の役割を付与し、クメール陶器を作ったり焼いたりすることができ、当時の生産の様子が実体験できるような体験学習施設地区とした。ただし、この種の施設を現地で実際に運営することは困難が予想されることから、この地区では現地住民によるクメール陶器の復元とその販売を考える別案もある。これは、地域住民に伝統技術を習得させるとともに、その販売による所得増大を意図したものである。

現在のところ、土地の所有や使用との関係あるいは整備後の運営の関係から、便益施設地区と体験学習施設地区は、その実現に困難が伴うことが予想され、来年度計画としてはA・B両窯跡群の整備を実施する。このため、

便益施設地区と体験学習施設地区の整備は、計画の変更も含めて、将来的な課題としている。

窯跡保存地区 A6号窯はB1・4号窯に比べて遺構の残りが良好であることから、遺構保存地区として整備することとした。ここでは、出土遺構に保存処置を施したうえ覆屋をかけて公開する手法を採用する。具体的には、まず残存する窯体に樹脂等を用いた強化処置を施すとともに、最も低い位置にある焚き口部の周囲に排水のための施設を設置する。その上で図27に見るようなクメール建築様式の木造覆屋を建設し、窯体を保護する。覆屋は外部からの雨の吹き込みを防ぐよう十分配慮するとともに、窯体の保存のために特に換気に配慮した構造とする。また、通常は外部からの見学を想定し、格子窓を設け、庇は吹放ちの構造とした。

窯跡復元地区 B群は窯跡復元地区と位置付ける。復元の対象とするのはB1号窯で、遺構保存のため現マウンド上に若干の盛土を行った後に、古代の状態を復元した窯跡と覆屋を築く(図28)。窯跡復元にあたっては、10～11世紀に築造されたときと同じ工法を用いることを原則とし、現時点では粘土塊を積み上げて窯体を作りあげる工法を考えている。なお窯内の状態を観察できるように、焼成室の側壁に観察用の窓を設けることとした。

博物館相当施設 遺構の保存整備とともに必要となってくるのが、出土遺物の展示公開である。先に述べた便益施設や体験学習施設と同様、土地所有と利用との関係から、現地に博物館相当施設を設置し適正に運営していくのは、きわめて困難な状況にある。そこでアプサラ(シエムリアップ地区遺跡保護開発機構)と協議のうえ、窯跡群の西側にある寺院境内にアプサラの事業として小博物館を建設し、遺物の展示を日本側が担当する計画を考えている。

事業予定 本事業は現地での建設工事を伴うため、日本側の奈文研と上智大学アンコール遺跡国際調査団とが施工計画をたて、現地の文化財保護担当機関であるアプサラが施工管理を行う計画とした。事業予算はユネスコ文化遺産保存日本信託基金へ助成を申請中である。助成の決定後、アプサラと協議の上、A6号窯の覆屋とB1号窯の復元に着手し、覆屋完成後に遺構を再発掘し窯体の強化処置を施す。最終的には本年度末(2003年3月)の完成と公開を予定している。

(杉山 洋)

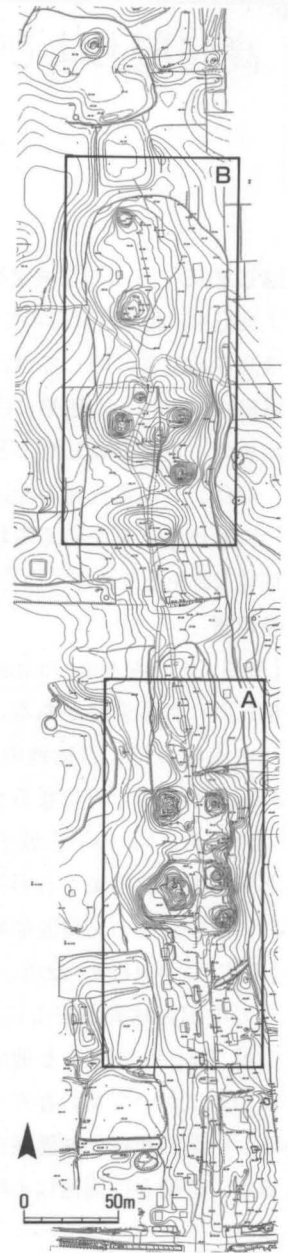
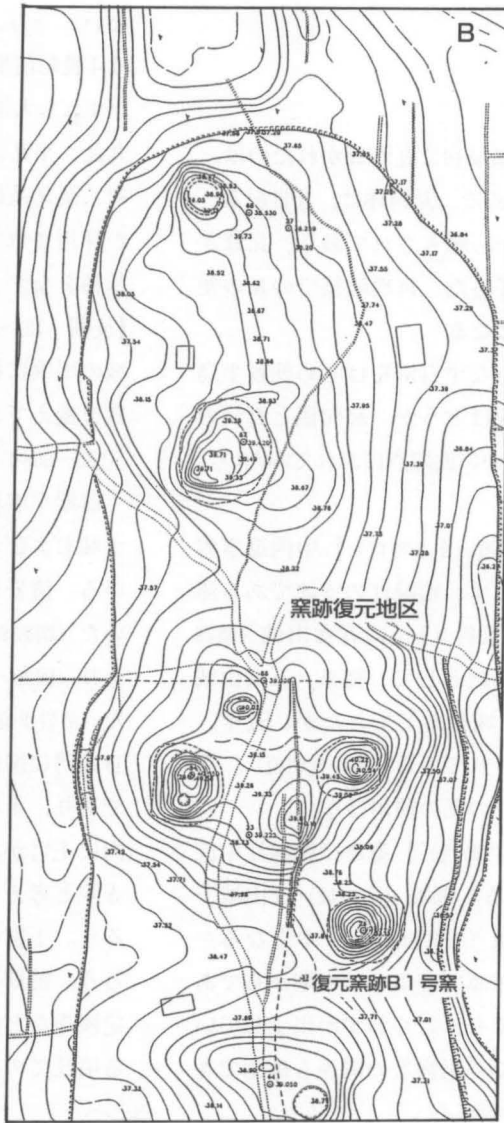
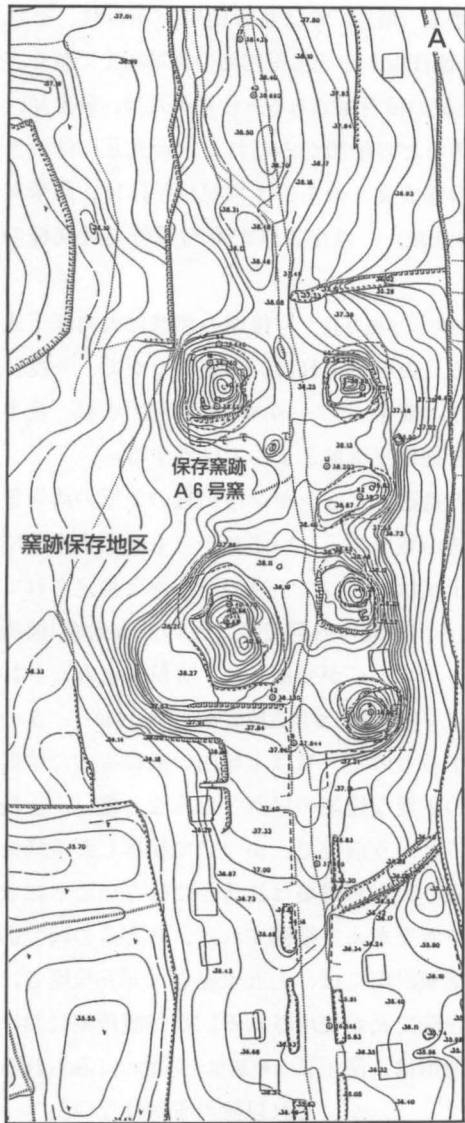


图26 タニ窯跡群地形図

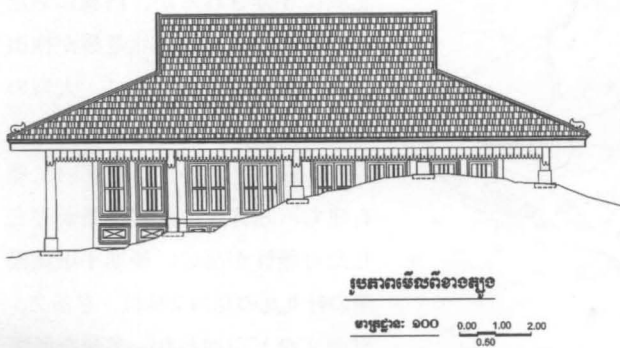


图27 窯跡保存地区・A6号窯覆屋立面図

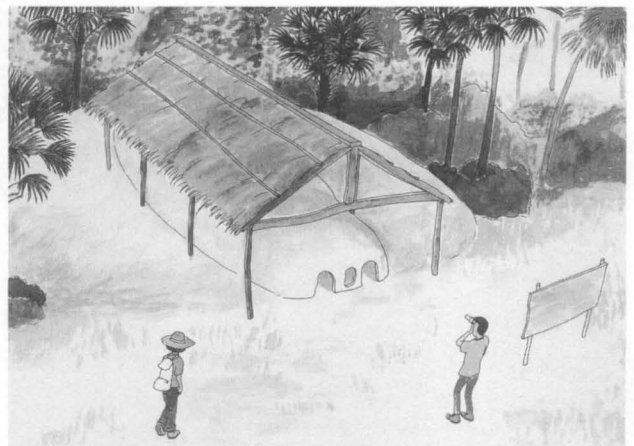


图28 窯跡復元地区・B1号窯復元完成予想図